

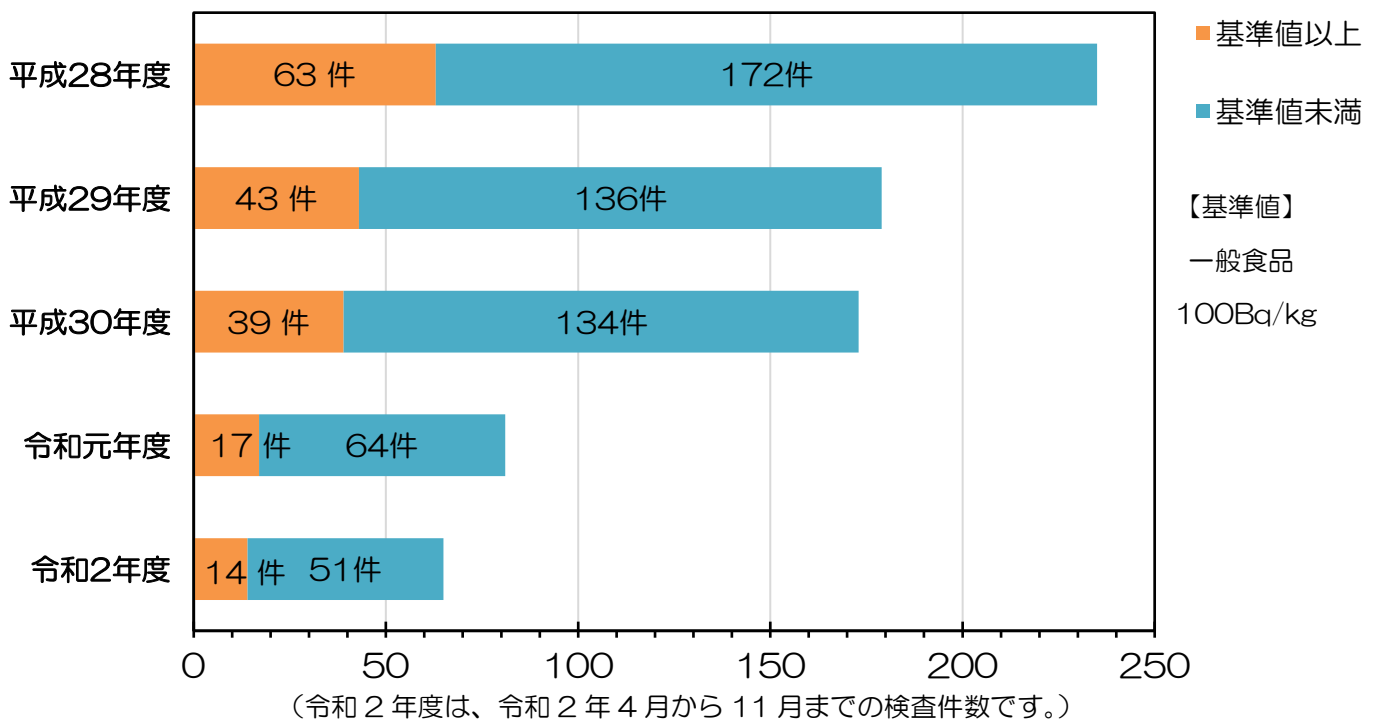


放射線相談室だより 72号 令和2年12月18日

1 令和2年度の山菜・きのこの検査結果の傾向

放射能簡易分析センターで実施している食品検査では、例年、主に山菜・きのこで基準値を超えるものが見つっています。下の図は、平成28年度からの山菜・きのこの検査結果をグラフにしたものです。

山菜・きのこで基準値を超えた件数の検査結果



山菜・きのこは、基準値を超える可能性があるため検査をおすすめしています。ここ数年、基準をこえるものは2割程度のようなですね。



今年度、基準値を超えた山菜・きのこの内訳

品名	検査数 (件)	N.D.~50Bq/kg	50~100Bq/kg	100Bq/kg~ (基準値超え)	最大値 (Bq/kg)
タケノコ	20	9	7	4	186.6
タラノメ	10	9	1	0	—
フキ	8	8	0	0	—
ワラビ	8	5	1	2	198.4
ゼンマイ	8	4	0	4	244.8
ウド	2	2	0	0	—
シドケ	2	2	0	0	—
コシアブラ	2	0	0	2	1109.9
シイタケ	1	0	0	1	420.9
シメジ	2	2	0	0	—
オリミキ	1	1	0	0	—
イノハナ	1	0	0	1	3081.6

最大値は、基準値を超えた品名のみ記載

基準値を超えた山菜・きのこの種類です。全体的に検査件数が少ないため、少しでも基準値を超えた山菜・きのこが見つかりと比率が高くなってしまいう傾向にあります。年々、基準値を超える山菜・きのこの件数は少なくなってきましたが、上の表からもわかるとおり、コシアブラとイノハナは、基準値を大きく超える値が検出されています。

皆さんの中で、少しでも食に対して不安な方がいらっしゃいましたら、検査にお持ちください。

食品のモニタリング結果総括表

(令和2年11月実施分)

【基準値】: 一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	6	6	0	
根菜・芋類	—	—	—	
山菜・きのこ	—	—	—	
果物	8	8	0	
穀類・種実類	—	—	—	
魚介類	—	—	—	
加工食品	—	—	—	
飲料水	—	—	—	
その他(肉類など)	2	2	0	
総検査数	16	16	0	

食品モニタリング結果の詳細については、公民館1階の放射能簡易分析センターと放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右のQRコードを読み取ったあと、東日本大震災復興関連情報→放射線量・除染関連→放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所	公民館1階 放射能簡易分析センター
曜 日	月曜日から金曜日(祝日を除く)
受付時間	午前8時30分～午後4時30分まで

広野町各地区の放射線量

令和2年12月14日13時30分現在(天候:曇)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率(μSv/h)	測定箇所	放射線量率(μSv/h)
広野小学校	0.09	広野町役場	0.09
広野中学校	0.09	高速バス利用者駐車場	0.15
広洋台地区集会所	0.09	上田郷橋付近 ^{注1}	0.13
二ツ沼公園 ^{注2}	0.08	北沢複合交差点	0.13
長畑地区集会所	0.11	県道広野～小高線沿	0.14
小滝平浄水場 ^{注2}	0.08	仮置場	0.12

注1 平成29年3月設置

注2 ニツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地ではnGy/h(ナノグレイ毎時)で表示されていますが、μSv/h(マイクロシーベルト毎時)に換算して掲載しています。

放射線健康対策委員会からの放射線に関するコラム

新型コロナウイルス禍の中で思うこと

日本大学工学部生命応用化学科教授 佐藤 健二

秋の夕暮れは「つるべ落とし」といわれますが、もうすぐ山々が雪の白さで覆われていく冬を迎えつつあります。改めてこの一年を振り返ると、春の桜から秋の紅葉まで美しい自然の移り変わりを新型コロナウイルス禍でじっくり愛でることができなかつたように思います。こうした思いは、もうすぐ10年を迎えようとしている東日本大震災と原発事故以来ではないかと……。

例えば原発事故後、私たちは放射線・放射能といった専門的な言葉を、時間をかけながらやっと理解し、それを自身の生活に受け入れ、あるいは、折り合いをつけながら新たな生活をスタートさせました。しかし、放射性物質に関わる風評被害は多くの人々の心情にも影響を及ぼし、さらに、現在も処理水に含まれる「トリチウム」の処理法を巡って新たな風評被害が懸念されています。その一方で、原発事故から10年という歳月を迎えつつある中で、私たちは放射線による人体への影響をはじめ多くの知識と知恵を得てきたことも事実です。

ここで世界に目を転じますと、昨年末からの新型コロナウイルス禍による感染者数は収束するどころか、日本国内においては「緊急事態宣言を視野に」と言われるほど感染者数の急増が報道されています。原発事故直後の放射性物質による汚染状況と新型コロナウイルス禍を同様に考えることはできませんが、一部で言われている「ウィズ(with) コロナ」ではなく、「放射線防護」と同じく「新型コロナウイルス防護」という考え方が重要ではないかと考えます。当時、私たちは放射線による人体への影響を低減させるためマスクの着用や顔・手指の洗いは勿論のこと保護メガネも使用しました。こうしたことは、新型コロナウイルス禍においても実践されていますが、今のところ目に関しては積極的に保護していないように思います。特に、会食や多数の方々が集まるような場所において、少なくとも眼鏡をかけない人は、サングラスやファッションメガネを利用することで、3つの感染経路、「飛沫感染」、「接触感染」、「空気感染」のうち飛沫感染からある程度防護できると思います。

美しい四季の移り変わりをご家族や親戚、そしてご近所の方々と感じる生活を送るため、原発事故で得てきた貴重な体験や経験や活用し、それを実践することが大切かと考えます。